

令和6年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立浅羽野小学校
実施日	2月5日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 4月の春季休業から校内研修(理念研修)を重ね、目指す学校像や目指す児童像を共有し、学校を運営してきた。 0.5時間授業の実施により、児童・教職員の放課後の時間を確保した。 一役一人制により各自が責任をもって役割に取り組めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 外部からの講師を招いて、児童への意識改革を図っていることは評価したい。 今後も学校内部だけでなく、地域住民の協力を得て児童の想像力や考える力を養う小学校へと進んでいきたい。 校長・教頭を中心に教職員が目指す学校像や目指す児童像を共有でき、その具現化に良く協働できている。 体験学習を積極的に取り入れている。 学校応援団の企画ができている。 褒め育てることで子供たちの笑顔を増やしている。 思い切った日課変更が効果的に機能しているよう働き方改革にもつながっている。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 報告・連絡・相談の徹底を図り、管理職を中心とした事故対応や事故の未然防止に努めた。 近隣の不審者情報はすぐるを使って保護者地域に情報発信し、協働して児童を守る体制作りを行った。 トラブル発生時は、目的を明確にして組織で対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 災害や事故発生時には初期対応が大切であり、組織全体での対応することが肝心である。 不審者情報をはじめ、小まめな情報を学校側から保護者や地域へ発信し、多くの人を巻き込む事も解決の一つであるので、方法の一つとして計画されたい。 すぐるを有効活用し、情報発信ができていたため、学校の動きがよく分かった。 児相との連携等、早い対応がなされている。 すぐるの活用ができている。 地域で不審者情報があった際に、学校職員の迅速な対応が心強かった。 トラブルに対して組織として対応する基盤が定着している。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 日課の変更、会議の精選、組織の解体と設立を行い、超過勤務時間が減った。 無限にある仕事に対して、個々に限度を定めているため、個人差が増している。 教職員一人一人が意識して、自律して取り組むことが重要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 組織内部の対応については、外部からは判断が難しい。 外部からは実態が把握しにくい内容。進んでいるのか、分かりにくい判断できない項目である。 この学校も同じだが、優先順位を決め、各自が効率的に公務をこなしていくことが重要である。 やりたいことが次々出てきて中々難しい課題だと思ふ。 教科担任制の導入・副担任を置く等工夫している。 超過勤務時間を減らす取組は行っているため、あとは個人の意識改革が必要である。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童が45分間学び続ける授業の創造を目指して、校内研修を進めてきた。向かう方向が共有できた。 教師の意識に差があり、浸透までに時間を要する。 授業研究を繰り返し、質の高い指導者を招聘することで授業力が向上している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 外見からは、児童へ寄り添いながら対応している姿を見て、少しでも理解されるよう努力をされているようだ。しかし、その結果・成果が出ているか図ることは難しい(出来ない。) 意欲的に研修を進めている。 研究授業を積極的にに行い、研修に動いていると思う。 個々の毎日の授業への準備や研究の時間の確保が課題。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り活動を盛んに行い、異学年児童の人間関係を通じた成長があった。教師の主体性に差異がある。 体験活動を十分に実施できた学年と、机上の学習が多くなった学年があった。 道徳授業の確実な実施と授業の充実を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 実体験を取り入れた体験授業は、児童への想像力を広げる一助になるのではないかと、ここから、児童がお互いに意見を交わして発展的に考えられるようになるのではないかと。 縦割り遊びなど、児童が主体となって行動している場面を見せてもらった。 児童主体の異学年活動を取り入れることで心の成長があるだろうと思う。 褒め育てる教育で自己肯定感からやる気を起こしている。 道徳教育の充実も児童の心を育てている。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内では、進んで挨拶をする児童が多いが、人間関係の深さや児童個々の特性によって差が大きい。 「聴き合う関係を重視した授業を展開し、尊重し合う関係作りにつとめてきた。聴ける子が4月から大幅に増えた。 全ての児童が安心・安全が感じられるようにしていくことで、心の安定をはかっていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全体を見渡して、児童が明るく・落ち着いた態度で過ごしている学校生活が感じられる。 細部まで目が行き届かないため、自己評価にあるような細かな点での不安定な部分の改善に努めていきたい。 授業を見せてもらったが、どの学年もよく授業に取り組んでいた。 学年によって特色があるが、落ち着いた態度で授業も受け取られた。 参観時、熱心に指導する先生の姿と意欲的に授業に参加する子供の姿が見られた。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に倫理確立委員会を実施し、計画的に不祥事防止のための研修を繰り返し実施した。 人間の脳の性質や情緒の状況などから不祥事にアプローチし、啓発を繰り返した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 組織内部の対応については、外部からは判断が難しい。 研修内容が開示されていれば、評価ができるが。 倫理観の醸成への努力を続けていきたい。 事故等の報告もなく、学校の説明や考えから意欲的に取り組んでいると感じた。 教職員事故が0だった。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 子供の側に立った生徒指導を多くの教職員が実践してきた。 児童の発達、依存の仕方等、科学的な視点を大事にした。 相談室、スクールカウンセラー、弁護士等と連携し、チームで子供に寄り添った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子供に寄り添っての対応は良いことと感じる。 大人が子供の立場に立って対応しなければ、子供のこの理解は難しい。 運営委員会では、いつも児童についての心温まる話を聞くことができる。これは、児童の良さを常によく見取り、評価している結果だと思ふ。 どの程度まで寄り添えばよいのか難しいところだが、できる限り寄り添ってあげたい。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育のユニバーサルデザイン化が図れるように、年度初めや夏休みに職員研修を実施した。 就学支援に関する情報共有を行い、他機関へと繋いだ。 一人一人の特性によりそった教育計画が必要である。 全ての児童が活躍できる学級・学校を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校内全体での対応が必須となるが、理解を共通とすることは中々難しい。 学校側の尽力は相当なことと思うが、地道な努力の継続が大切となるので、今後も継続をお願いしたい。 パソコン教室を相談室的な教室に作り替える等、対応が早い。 一人一人の特性に寄り添うという姿勢をしっかりと持てるよう研修を深めていきたい。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 清掃時間、清掃回数を減らし、より集中して清掃に取り組めるようにした。 毎月安全点検を欠かさず行い、専門的な業者の協力を得ながら改善を図ってきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 何処に危険が潜んでいるか、目線と気づきが大切と思う。子供には思いがけないところで、危険な行為をすることを念頭に安全管理を進めていきたい。 予算に関することになるが、手洗い場やトイレの改装・整備が必要である。 子供たちが一生懸命清掃に取り組んでいる姿が見られた。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> 無くなっていた全ての行事を復活実施し、新規の取組も多く実施した。できる限り多くの保護者・地域の方々に教育活動を観ていただけるよう尽力した。 HP・学校便りを中心に、オンラインを活用した情報提供に積極的に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校となるよう努力されていることを、日ごろから感じている。 今後も、更に開かれた学校へとなるよう継続されたい。 すぐるが有効活用されていた。 学校便り・すぐるを通して情報提供がよくできていると思う。 すぐるについては、資源回収のちらしと同じように学区全体に一度配布してもいいのではないかと。 情報発信がよくできている。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 主体的創造的で自走する学校応援団を目指して活動を続け、協力者が増えた。 コミュニティスクールにおいては、課題について共に考え、校長の判断の助けとなるようにできた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用した授業は、とても良いことと思う。 開かれた学校づくりと同様に、地域の方々に教育への協力を求めて、今後の学校教育に活かしていきたい。 すぐるによる情報提供・募集がされている。 PTAがなくても学校応援団の協力者がたくさん立候補していることが素晴らしい。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> スタディーウィークを浅羽野中学校の定期テストを中心に設定し、共通理解のもと取り組んできた。 小中連絡会は規模を拡大して実施した。協働と懇親を柱にして進め、顔見知りになった。 部活動に職員と保護者で参加し、親交を深めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫がどのように進んでいくか、成功するか、危惧していたところである。小学校授業へ中学校教員による授業に児童も新鮮に感じて前向きに取り組んで向上することを期待する。 なかなか小中の教員の交流が進まない中、部活動等で親交を深められたことは良いことである。 まずは、小中の教員の顔が分かることが大切である。 「小中音楽交流会」「小中一貫下校」「陸上の練習」「教職員の情報交換」「授業交流」がなされている。 様々な連携した行事を実践できた。今後も継続していきたい。